# 『演芸と映画』-舞台- 電子書籍 復刻版 ページ見本









# 

□筆岡慎吉(五郎氏)姿お糸(大磯氏)村岡喜一郎(蝶六氏)

#### "春 の 土 安" (言狂月三場舞演橋新) 作氏鳥自宗正



口総田信長(左團次氏)村瀬新八(殡之助氏)侍女若菜(芝鶴氏)旅人四郎兵衛(籌美藏氏)

### "せ 合 顔 の 吉 菊" (座 伎 舞 歌 の 月 六)



東部市・大学では、また。 1821年 182

(宣狂月六座樂邦)



Kakashi, inc.

□吉良の仁吉

澤田正二郎氏)

女房おきく

山路干枝子

#### "? 者役化道"

(言狂月八場劇國帝)

マーレ SKS2444327850848でも名名と 334 で た 252 で 344 で



"松門背妹樣模染"



'藏臣忠和昭"



#### " み よ ご 梅 "

(言 狂 月 一 座 村 市)



## 201



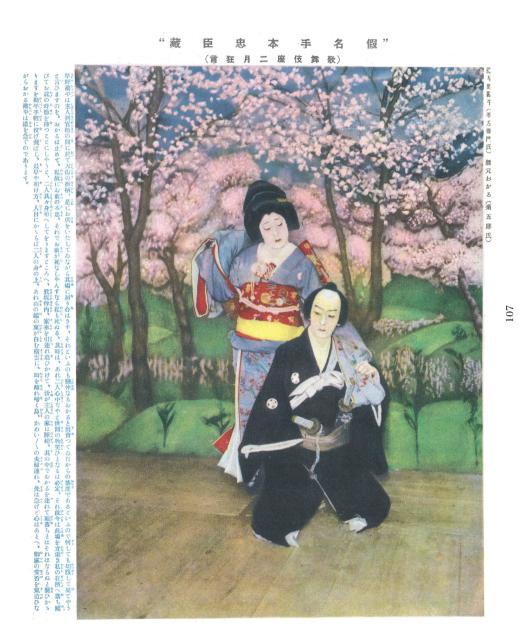


SKENSKEARARINKUSHERINKUSKE

## " 枕

(言 狂 月 二 十 座 伎 舞 歌) 160手が廻り回り前に近い追分でૈを石は駕籠に乗つたまよ縄をかけられ、その場で自害いたします。小女郎も同じく縄にかかりよす。同時に毛動造も召捕られましたが、時の帝の御即位の剣部受け出する。かいて水人の恵七と毛刺が逢つて双方罷るよしたが、小女郎可愛さの餘り遂に海賊の仲間入りをすることになります。やがて水人の恵七と毛刺が逢つて双方罷るよしたが、小女郎可愛さの餘り遂に海賊の仲間入りをすることになります。やがて寒七れ小女郎共々攻都の必指町に住ってをりませ、鹿田里の亭主四郎だの捨で小女郎と走五ことが吐ひます。そこへ堂が小殿込んだのが王動上右衛門一味の君であります。毛動が海賊と如らの小女郎は王朝に走って身満けの会を無心しまての肝理の原子の門でからない。近日の小女郎は王朝に走って身満けの会を無心します。を勝いたの神でからなりであります。王朝が海賊と如らの小女郎は王朝に走って身満けの会を無心しまての勝口を取れた御門一味の君の承込んだ鮨から解くの思めで言いたことの出来た小門足形とは、ど食のやうな身髪りをして勝多の明にさまよび入り、続しい小女郎の恋を一目見やうとしてで縁近れた

"面 對 壽" 我 (言 狂 月 二 十 座 南都京)





Kakashi, inc.

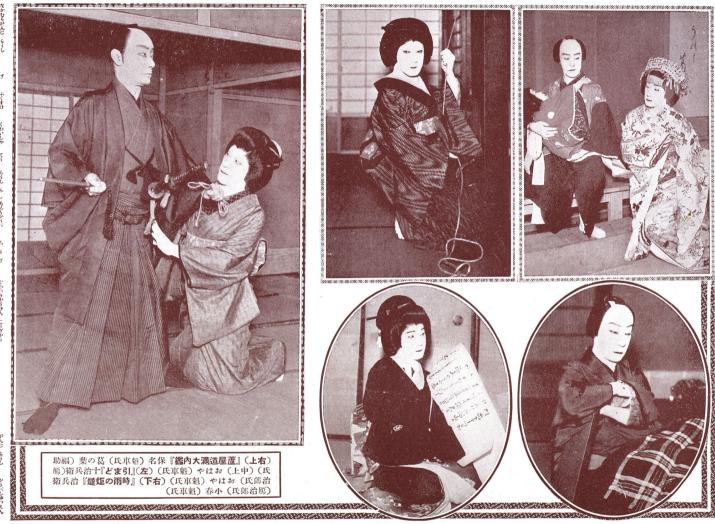
#### ◆◆◆ 裝 扮 の 後 最 と 氏 郎 二 正 田 澤 故 ◆◆◆

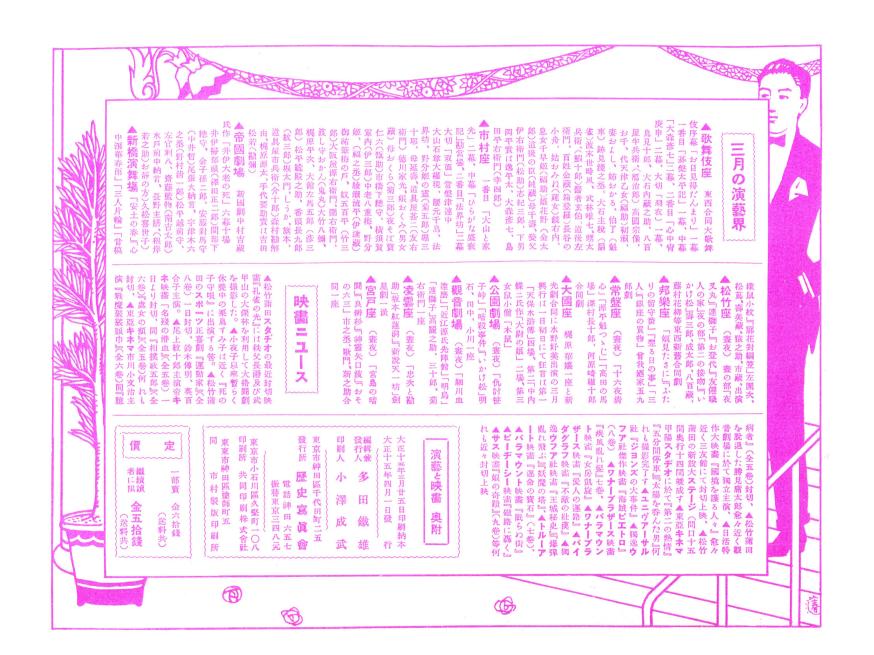
田隼人であります。



(右)素質の故澤田正二郎氏(左)同氏最後の扮裝『赤穂浪士』の堀田隼人

#### " ど ま 引 " 』 " 燵炬の雨時 " 』 " 鑑內大滿道屋蘆 " (言 狂 月 六 座 代 千 八 戸 神)





□百姓丈助(井上正夫氏) 伜修助(長十郎氏)